

千川福祉会 社会福祉施設サポートインターンシップ

- プログラム概要 : 主に知的障害のある方が利用する就労継続支援B型事業・生活介護事業における作業活動支援(補助)、知的障害のある児童・生徒の利用する放課後等デイサービス事業所での活動支援(補助)
- 実習先 : ワークイン関前、ななほしワークス、ワークイン中町、千川さくらんぼクラブ
- 実習先情報 : 社会福祉法人武蔵野千川福祉会
- 参加人数 : 2名
- 学部学科 : 人間科学科、社会福祉学科
- 実習期間 : 令和5年8月28日～9月20日
- 本学担当教員 : 本多 勇(通信教育部人間科学科社会福祉専攻)

武蔵野千川福祉会 ワークイン中町 フィールドスタディーズ実習成果報告 人間科学科 2331133 萩原菜々美

〇はじめに

今回このFSを選んだ理由は、知的障害を持つ方に対しての支援方法を実際に見て、経験して学びたかったからである。就労支援施設とは、生活支援とどのように違うのか、実際どのような仕事をしているのか知らないことばかりであったため、このFSを希望した。利用者の年齢層は20代～70代と幅広く、それ故、支援者側のコミュニケーションの取り方や声掛けは利用者に合わせて工夫する必要があることがこのFSで分かった。

〇実習内容

ワークイン中町は9時30分のストレッチと打合せから始業する。午前の打合せでその日の作業内容を確認した後、仕事に取り掛かる。お昼休憩後の午後は休憩をはさみ、2回にわけて作業をする。一日の終わりに打合せを行い、その日の振り返りと次の日の予定を確認する。私は利用者の方と共同作業をしたり、一緒に昼食をとった。なるべく利用者と多く関わられるよう努力した。

作業内容は、10数え、(帳合)、封入、封緘、ラベル張りである。これらを利用者と共にこなした。これらの作業が早く終わり、空き時間ができた場合には、自由時間や学習の時間があつた。学習時間には、利用者の前で仕事時の姿勢の手本を見せることとなった。いつもは椅子に座ることが苦手な方も必死に学んでいたことがとても嬉しかった。

毎週火曜日の午後はアートの時間があり、そのために買い物や図書館へ行くこともあつた。外部の先生を招いて、創作活動を行うことで利用者の新しい発想や展開を広げることに尽力した。

〇提案したこと、発信したこと、など

ワークイン中町で働いている人には、衝動行為が強く出てしまう人が多かつた。そのため作業中は、大声を出してしまう方や机や椅子を叩いてしまう方がおり、その音に反応して気分が高まってしまう方もいた。それらの行動をそのままにしておいては、作業が中々進まなかつたり、利用者同士のトラブルやケガに繋がるので、声を掛ける、背中をさするなどして行為が他の利用者の妨げにならないよう配慮した。

利用者の方との交流を大切にしたいから、こちらから多く話しかけることを心掛けた。なかには会話することが難しい方もいたが、頷きや目線、椅子を用意するなどの言葉以外のコミュニケーションを汲み取ることを意識したことで自然と利用者との距離が縮まったように感じる。

また、「褒める」を意識して活動した。なぜなら、利用者の方は褒められるという経験をあまりしていないという話を聞いたからである。褒めることは環境に不慣れな私と利用者さんをつなぐコミュニケーションツールとなり、仕事へのモチベーションになった。話していく上で利用者さんの性格や好きなものを知ることができ、より交流することが可能になった。

○経験したこと、学んだこと、など

ワークイン中町はできることは伸ばす。苦手な作業は支援する。ということ職員の方含め、体現している場であった。そのため、施設内にはあらゆる五感を使って情報を得る工夫がされていた。一日の予定は目で見て、声に出して、それを聞くことで把握する。舌を使うことが苦手な方は、発音することを苦手としていたが、それでも毎日、日付を読み上げていた。特定の言葉でコミュニケーションを取ろうとしてくれていたことに気が付くことができた際はとても感動した。

○今後の展開、今後の学び、など

自分に見えていないところで支えてくださっている存在に気が付くことができた。このFSを通して、働くことへの姿勢というのは健常者と分けて考える必要はまったくないと強く思った。

○まとめ

私は今回のFSで、自分の固定観念に気が付くことができた。活動時には利用者の方に対して、勝手に難しい作業だろうなどと決めつけて手伝おうとしてしまった。自分は手伝ったという偽善に浸っていたが、これでは利用者の方本来の力を発揮する場を奪ってしまうことに気が付いた。ワークイン中町は就労支援施設であるから、決して子ども扱いを望んでいるわけではない。自律性を高めるという点において、こちら側も作業時は優先順位を考慮して接し方のメリハリをつける必要があると学んだ。

人間科学科 学籍番号2331239 坪井福実

○はじめに

私たちは今回、ワークイン中町という生活介護事業所で実習を行わせていただきました。ワークイン中町は、常に介護を必要とする知的障害者の方に対して、日中の生活介護や生産・創作活動の機会の提供などの援助を行っている施設です。

○実習内容

事業所で利用者さんが行っている活動の体験や、支援する職員側としての声かけを主に行いました。

前述の生産活動とはダイレクトメールを袋に入れラベルを貼る作業、創作活動とは講師を招いての図画工作のことです。創作活動の時間は利用者さんとお話ししやすく、気に入っていただけることもあり、学びが多くとても楽しい時間になりました。

また、事業所長に私たちの態度を褒めていただき、元の計画にはなかったグループホームの見学もさせていただくことができました。

○提案したこと、発信したこと、など

利用者さんと関わっていくうちにそれぞれの好き嫌いが分かるようになり、話しかける際に興味のあるような話題を考えられるようになったことが嬉しかったです。いつも質問してくる利用者さんも、「〇〇さんは？」と返すと自分のことを答えてくださり、少し工夫すればうまくコミュニケーションが取れるのだと分かりました。

創作活動の時間、紙に自分の名前を書くばかりで絵を描いたことのなかった方に、「ここに猫を描いてみて」と紙を差し出したところ、職員の皆さんも見たことがなかったその方オリジナルの絵を描いていただくことができ、とても楽しい思い出となりました。

○経験したこと、学んだこと、など

知的障害のある方と関わるのは初めてのことで、なにもかもが新しい経験でした。初めは障害者と健常者の間には大きな違いがあるのだろうと思い、この実習も不安に感じていましたが、関わっていくうちにその気持ちは解け、障害は性格の延長線上にある個性なのだと思えるようになりました。

また、支援している職員の方々の接し方を見て、障害の有無に関わらず、あるがままの相手を認め、周囲と比べることなく褒めることができれば、最高の人間関係が育めるのではないかとと思います。

○今後の展開、今後の学び、など

カウンセラーになることを志して人間科学科に入った私ですが、今回の実習を通して社会福祉の学問にも非常に興味が湧きました。今後はその方面の職業の知識も取り入れ、将来就く仕事について考えていきたいと思えます。

○まとめ

障害者の方と関わったのは初めてのことで、一か月間のうちに考え方を大きく変えられました。短い期間ではありましたが、今後学ぶ学問や職業の選択にも大きく影響を与えられる、充実した実習になったと思えます。

○担当教員コメント（担当教員：通信教育部社会福祉専攻・本多 勇）

長期FS実習、お疲れ様でした。多くの学びを得られたことが伝わってきました。

萩原さんは、FS実習のなかで、自身の「先入観」や「固定観念」に気付かれたことが素晴らしいことと思います。そして利用者の方々との「大人としての関わり方」についても深く学ばれたようです。

坪井さんは、障害者支援施設でのFS実習の中で、そもそも「障害」とはどのようなものか、ということ深く考えたことが伝わってきました。「障害」と「健常」の連続性、境界線、など。多様性尊重の社会には重要な課題です。

今後の学科での学び、社会での生活、卒業後の実践・仕事につながる多くの示唆があったことと思います。今後の活躍を応援しております。



千川福祉会社会福祉施設サポートインターンシップ

- プログラム概要 : 社会福祉法人武蔵野千川福祉会の運営する施設で実習や障害のある子どもたちと遊ぶ
- 実習先 : 千川さくらんぼクラブ(東京都武蔵野市)
- 実習先情報 : 平成23年設立 小学5年生から高校3年生までが対象
- 参加人数 : 1名
- 学部学科 : 社会福祉学科
- 実習期間 : 令和5年8月29日～9月21日
- 本学担当教員 : 本多 勇(通信教育部人間科学科社会福祉専攻)

武蔵野千川福祉会 千川さくらんぼクラブ フィールドスタディーズ実習成果報告 社会福祉学科2333042 坂梨世一郎

○はじめに

今回、社会福祉法人武蔵野千川福祉会が運営する千川さくらんぼクラブに実習に行き、中学生から高校生の知的障害児の利用者と交流した。

○実習内容

プログラムの補助、利用者との交流、送迎



○経験したこと、学んだこと、など

まず、その事業所が掲げている目標があり、「自分のことを自分でして、やりとりのできる子を育てる」ということでこのことを実践するために数年単位で関わりを続けていることを学んだ。

自分のことを自分でする子を育てる点としては職員が子どもたちを「褒める」回数や頻度の多さから、「褒める」ということが肝要であることを学び、何でも先回りしてやらないようにすることも経験した。自身から動いてくれるような働きかけも重要であった。

やりとりのできる子を育てるという点では接し方として話しかけられたら返事をするということが必要であり、同じことをして共感し感じる力を育むことも学んだ。

○まとめ

実習に参加したことで、利用者との適切な関わり方や成長に向けての介入の仕方について学んだ。しかし、話しかけても返事がなかったり、プログラムに反したことをしてしまう利用者との関わり方がわからなかった。このことは長い期間根気よく利用者に関わることで解消されると考えられ、実習先の職員も、長期にわたる関わりと信頼関係の構築によって、利用者に関心を開いてもらったのではないかと考察した。

○担当教員コメント(通信教育部社会福祉専攻・本多 勇)

長期FS実習、お疲れ様でした。多くの学びを得られたことが伝わってきました。

坂梨さんは、対人支援関係のなかにおける「ストレス」について気づきがありました。支援の現場において、相手に介入しようとしたときの、支援者との関係性や権力性について、引き続き意識をしてみてください。

今後の学科での学び、社会での生活、卒業後の実践・仕事につながる多くの示唆があったことと思います。今後の活躍を応援しております。

千川福祉会 社会福祉施設サポートインターンシップ

プログラム概要： 主に知的障害のある方が利用する就労継続支援B型事業・生活介護事業における作業活動支援（補助）、知的障害のある児童・生徒の利用する放課後等デイサービス事業所での活動支援（補助）

実習先： ワークイン関前、ななほしワークス、ワークイン中町、千川さくらんぼクラブ
実習先情報： 社会福祉法人 武蔵野千川福祉会
学部学科： 人間科学部 人間科学学科 社会福祉学科
実習期間： 令和5年8月28日～9月20日
本学担当教員： 本多 勇（通信教育部人間科学科社会福祉専攻）

ななほしワークス フィールドスタディーズ 実習成果報告 人間科学部 人間科学科 恩田歩美

〇はじめに

私は今回武蔵野市にあるななほしワークスという障害者の方が通う施設(生活介護事業所)で17日間実習をしました。17日間の実習の中で15人の障がい者の方と関わり、今までの自分の考えや価値観を変える経験になりました。

〇実習内容

- ・朝と昼に行う体操
- ・作業(10数え、帳合、封入、封緘、ラベル張り、のし箱折り)
- ・買い物活動
- ・レクリエーション
- ・音楽鑑賞
- ・ウォーキング
- ・アート活動
- ・さくらはうす（グループホーム）の清掃

〇実習を通し学んだこと

障がいを持つ人への接し方について学ぶことが出来ました。障害者の方と関わる機会は少ないので、障害者の方への接し方はとても大きな学びになりました。



〇楽しかったこと

利用者さんで行うレクリエーションの活動がとても楽しかったです。ペットボトルとガムテープで行うボーリングや、細く切った新聞紙をいかに早く落とせるかといったようなゲームを通し、利用者さんとの親交が深まる良い経験になったと思います。



〇大変だったこと

作業中に声かけをしても反応してもらえないことがあったり、利用者さん同士でトラブルがあった際にどう対応したら良いのかが分からなかったことがありました。

〇実習をするにあたって自分が行った工夫

職員の方の利用者さんへの対応をよく見て、どのように対応したらよいのかを学び実践しました。また、利用者さんと話すときは利用者さんの目を見て、笑顔で話し、なるべく短い言葉で、必要なことだけを話すように心がけました。

〇まとめ

私はこの実習を通して、障害について学ぶこと、障害者の方と関わることの大切さを実感しました。これから障害者の方と関わる機会があったときには、積極的にコミュニケーションをとっていきたいです。

●はじめに

私は今回、障害のある人の生活と労働を発展させることを目的としている「ななほしワークス」に実習に行かせてもらいました。

●実習内容

ななほしワークスでは、主に生活に関わる活動と労働に関わる活動があります。労働部分の活動は、ペンの封入封緘やダイレクトメールの封入封緘が主な仕事になっています。作業そのものは単純ですが、量が多くそれを利用者の方々にこなしてもらうために、様々な工夫がされていました。生活に関わる活動は主にレクリエーション活動やアート活動、買い物活動があります。レクリエーション活動やアート活動を通して利用者同士の交流ができ、買い物活動を行うことによって社会で必要な力を養っていきます。

●経験したこと、学んだこと、など

今回ななほしワークスへ実習に行かせていただけたことで、多くのことを学ばせていただきました。まず実習を行う前と比べて、障害を持つ方々へのイメージが大きく変わったことが、最も大きな点です。実習へ行く前は、障害を持っている人々はコミュニケーションの取れない理解のできないもののように感じていました。しかし実習を通じてそれは間違いであり、理解することを放棄しなければ分かり合えると学びました。例えば言葉でのコミュニケーションが難しくても、ジェスチャーなどを使って意思の疎通を図ってくれる利用者の方がいました。この様に障害を持っているからといって、まともに関わる事ができないと決めつけることは間違っているのだと考えられるようになりました。

また実習中は主に利用者の方々とともに活動をしていたのですが、その中で障害を持っている方々の得意なこと、苦手なことが見えてきました。もちろん個人差があるので絶対ではないですが、新しいことを始めることは苦手、慣れている作業であれば実習生の手伝いまでしてくれるほどに手際よく集中して行っていると気づきました。これは買い物活動の時や外で活動する時もそうで、慣れている道であれば自分から迷わず進んでいけていました。この様子を見て、新しく始める部分のサポートさえあれば、社会に出られる人も多いのではないかと感じました。

まとめ

今回のななほしワークスでの実習を経て、障害を持っている人々への偏見というものがまだまだあるのだということを感じました。自分自身がそうでしたが、障害を持つ人を差別しようなどと考えていなくても無意識のうちに分かり合うことはできないと決めつけていたり、仕事が出来ないと思い込んでいたりなど無意識に差別してしまっているのが現状だと考えます。これは実際に関わることがほとんどなく多くの人を実態を知らないことが原因であると考えられます。私は今回の実習を通して、障害とは誰にでもある得意不得意の延長線上にあるものだと考えられるようになったので、交流する機会を社会全体で作っていければ、偏見を無くしていけると考えます。

○担当教員コメント（担当教員：通信教育部社会福祉専攻・本多勇）

長期FS実習、お疲れ様でした。多くの学びを得られたことが伝わってきました。

恩田さんは、障害者の方々との初めての関わりの機会、会話やレクリエーションから、「障害のある人」の印象が変わったことで気づきを得たようです。

吉澤さんは、緊張の中、利用者みなさんから関わってもらえたことで、緊張が解けたことが印象的だったようです。接する機会が日常的になると「障害」をあまり意識しないという気づきもあったとのことでした。

いわゆる「障害者」への印象が大きく変わったことが伝わってきました。

今後の学科での学び、社会での生活、卒業後の実践・仕事につながる多くの示唆があったことと思います。今後の活躍を応援しております。



千川福祉会 社会福祉施設サポートインターシップ

- プログラム概要 : 主に知的障害のある方が利用する就労継続支援B型事業・生活介護事業における作業活動支援(補助)、知的障害のある児童・生徒の利用する放課後等デイサービス事業所での活動支援(補助)
- 実習先 : ワークイン関前、ななほしワークス、ワークイン中町、千川さくらんぼクラブ
- 実習先情報 : 社会福祉法人 武蔵野千川福祉会
- 参加人数 : 2名
- 学部学科 : 社会福祉学科、人間科学科
- 実習期間 : 令和5年8月28日～9月20日
- 本学担当教員 : 本多 勇(通信教育部人間科学科社会福祉専攻)

ワークイン関前 フィールドスタディーズ 実習成果報告 社会福祉学科 2333054 シュウ ケイ

〇はじめに

私は障害者福祉施設ワークイン関前で18日間実習をした。現場で知的障害者と一緒に働き、社会福祉の専門知識において深く理解した。

〇実習内容

- ・ダイレクトメール、雑誌や新聞の丁合、封入、封緘、ラベル貼り、検査
- ・消毒、掃除

〇経験したこと、学んだこと、など

実習期間中に、予測できない状況に対処するためのスキルを身につけ、異なる状況や課題に柔軟に対応し、解決策を見つける。例えば、利用者の突然の健康上の問題や不満の処理方法を学べた。実際のケアの中で、対話、共感力などのコミュニケーションスキルを磨くことができる。

〇今後の展開、今後の学び、など

今後、障害者支援の分野での志を維持し、将来的に関与し続けることを目指しながら、ボランティア活動やキャリアの一部として障害者支援に関わりたいと考える。もっと障害者福祉や権利の知識について知りたいと思う。

〇提案したいこと、発信したいこと、など

障害者の権利や社会参加の重要性についての啓発活動を行い、日本だけでなく、中国の職業訓練を提案したい。彼らが自立した生活を送るための職業スキルを磨く機会を提供する。障害者たちは、他の人々と同じように平等であることを強調したい。彼らは差別や偏見に立ち向かい、尊厳と人権を尊重される権利を主張し、障害は、個人の能力や貢献に制約を設けるものではない。彼らは自分の能力を最大限に発揮し、社会に貢献する権利を提供する。障害者の教育と雇用に対する機会を提供することも重要である。彼らは適切な教育と公平な雇用機会を求めることが非常に大事になる。

○担当教員コメント(担当教員:通信教育部社会福祉専攻・本多 勇)

長期FS実習、お疲れ様でした。多くの学びを得られたことが伝わってきました。

シュウさんは、留学生としての立場で感じる日本社会での生活しづらさと、障害のある方々の生活のしづらさを重ねながら、学びを深められていたのが印象的でした。「言葉の壁」が時々バリアになるようですが、様々な経験を重ねてソーシャルワークの学びを深めてください。今後の学科での学び、社会での生活、卒業後の実践・仕事につながる多くの示唆があったことと思います。今後の活躍を応援しております。

